

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用		
	性・年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置		
1	女 80代	発作性心房細動 (脳梗塞)	200mg 約7年間 ↓ 300mg 8日間 ↓ 100mg 7日間	ペースング閾値上昇		
				発現約7年前 (投与開始日)	洞不全症候群に対しVVIペースメーカー植え込み術施行。 心房細動に対して本剤200mg内服を開始。	
				発現約1年前	ペースング閾値 1.25V/0.73ms	
				発現6日前	1ヵ月前に発現した脳梗塞のため、リハビリテーション目的でA院へ転院。 転院時本剤300mgを内服していた。	
				発現4日前	口渇，吐気，食欲不振が出現。	
				発現日	喘鳴出現。 心電図上ペースング不全，QRS幅延長及びQT延長を，心エコー上びまん性の壁運動低下を認めた。	
				発現1日後 (投与中止日)	原因精査・治療目的でB院循環器内科入院。 ペースング閾値 3.25V/0.73msと上昇を認め，心エコー上壁運動のびまん性の低下を認めた。 本剤血中濃度：2120ng/mL 本剤の中毒を疑い，本剤を中止。補液・利尿によるwashoutを施行。	
				中止6日後	QRS幅は0.16秒と改善を認める。	
				中止7日後 (再投与開始日)	本剤100mgで再開し，経過観察。	
				再投与7日目 (再投与中止日)	ペースング閾値上昇，口渇，吐気，食欲不振，QRS幅延長，心機能低下，QT延長が回復。 閾値の改善 1.25V/0.85ms QRS幅は0.12秒と更に縮小を認めたが，心房粗動となったため本剤を中止し，rate controlと抗凝固療法を行い，A院へ転院した。	
中止15日後 (再々投与開始日)	A院で本剤100mgを再開。					
再々投与1ヵ月後	本剤血中濃度は129ng/mLと正常範囲内。					
再々投与約2ヵ月後	B院受診。 壁運動は更に改善し，心房粗動は消失して洞調律が維持され，QRS幅の増大はなし。 ペースング閾値は1.25V/0.85msと変化はなく，経過良好					
臨床検査値						
	発現約1年前	発現1日後 (投与中止日)	再投与7日目 (再投与中止日)	再々投与 1ヵ月後	再々投与 2ヵ月後	
ペースング閾値	1.25V/0.73ms	3.25V/0.73ms	1.25V/0.85ms	—	1.25V/0.85ms	
EF (%)	—	33	47	—	50	
QT (ms)	—	600	420	—	—	
本剤血中濃度 (ng/mL)	—	2120	—	129	—	
併用薬：不明						

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用
	性・年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置
2	女 90代	洞不全症候群 (なし)	200mg 不明	ペーシング閾値上昇
				日時不明 洞不全症候群に対して DDD ペースメーカー植え込み術を施行。
				投与開始日 洞不全症候群に対して本剤 200mg/日投与開始。
				日時不明 ペーシング不全による心不全が発現。 (投与中止 本剤の投与を中止。 日)
				中止 1 日後 入院。 徐脈, 全身浮腫, 循環不全症状あり。 心電図では心拍数40/分, QRS幅延長, ペーシング波形なし。心房, 心室リードともペーシング閾値が大幅に上昇, リード抵抗の上昇は認めず。心室ペーシング出力最大にて心室捕捉可能となりVVI ペーシング, 補液を行った。
				中止 4 日後 自己脈出現, ペーシング閾値も低下した。
				日時不明 本剤血中濃度 : 2708ng/mL。
				中止 31 日 ペーシング不全による心不全が回復。 後
併用薬 : アスピリン, アムロジピンベシル酸塩, コハク酸ソリフェナシン, カルベジロール, ファモチジン				